

私は五年前に転校した。私の住んでいる地域は、過疎地域であるため児童の数がどんどん少なくなっていき小学校が閉校することになったからだ。私が新しく通うことになった学校は、家から十キロほど離れていたため、スクールバスを利用して通学することになった。それを知った私は、「お母さん、バス通学になったら私、毎日運賃払うの？」と母にたずねると

「バスの運賃はすべて市が負担してくれるのよ。本当にありがたいわ」と教えてくれた。当時四年生の私には、その意味があまり理解できず、ありがたさに気づけなかった。しかし、その制度について改めて考えてみると、とても秀れた制度だったことを知った。

私は、その制度について調べてみた。まずその制度により、どれほどのバスの運賃が負担されているのか計算してみると一年間で約『百八十六万円』も負担されていた。市がこんなにも多額の負担をしていることにびっくりした。こんな大金がどこから賄われているのかさらに調べてみると、どうやら『地方交付税』という税のおかげらしい。近年都市圏と地方の人口格差とともに、財政力にも大きな差が生じ地方に住むことが困難にならないよう一定の水準を確保するため必要なお金を国が地方に保障する制度だ。また、地方交付税の原資は十九・五パーセントが消費税であった。私はそれまで、消費税が上がったことにうんざりしていた。しかし、その消費税は巡り巡って、私の生活を支えていたことを知り感謝の気持ちでいっぱいになった。

税金を払うことで、赤ちゃんからお年寄りまでたくさんの方の助けになる。しかし税金は周りの人だけでなく、なにより自分自身の助けにもなっていた。少子高齢化が進む世の中で、子供の数が減少していき私のように遠くの学校まで通わなければならない人がこれから増えていくだろう。しかし、そんな大きな課題の解決を受け持つのは税金だ。

私はこれまで税金が年金や道路、教育に使われていることは知っていたが、どこかひとごとのように感じていた。今まで何も考えずバスに乗ったり、机に向かったりしていたが今回の体験をきっかけに自分が生活をするなかで税に対して意識するようになった。税金は、私たちの生活を支えていくために今日もそしてこれからも大切な役割を担っている。そのことを忘れず、私も一人の日本国民としてしっかりと納税できる大人になりたいと強く思った。